

# 泉坂下遺跡確認調査 現地説明会を開催

泉地内にて市教育委員会が実施していた泉坂下遺跡確認調査の報告をするため、11月4日に現地説明会が開催されました。

今回の調査は、平成18年度に人面付土器が出土して一躍脚光を浴びた泉坂下遺跡において、再葬墓の広がり把握することを目的として実施されたものです。



▲人面付土器のレプリカを前に遺跡について説明する石川教授



▲確認された再葬墓遺構について説明する石川教授

上久保洋一教育長と泉坂下遺跡保存委員会の川崎純徳座長（茨城県考古学協会会長）のあいさつの後、泉坂下遺跡保存委員会の石川日出志委員（明治大学文学部教授）が解説をしながら、調査箇所を回りました。

今回の調査で注目するところは、弥生時代中期（約2200年前）の再葬墓の広がる範囲をおおむね把握

できたことです。

再葬墓とは、死者を一旦埋葬するなどして骨にした後取り出し、その骨を再び埋葬する墓制で、弥生時代に東日本で行われていました。平成18年の調査で再葬墓の存在は確認されていましたが、今回の調査でその範囲がおおむね把握できました。石川氏によると現在残っている再葬墓遺跡の中では泉坂下遺跡が日本一状態がよいとのこと。

また弥生時代だけでなく、縄文時代や平安時代、中世などの様々な時代の遺跡が周辺に広がっていることを確認できた点も大きな成果です。

●縄文時代では、食べ物の貯蔵穴と考えられるフラスコ状土坑や祭祀に使われた石棒の未完成品などが見つかっています。

●弥生時代では再葬墓より少し新しい時代の土器が見つかり、底に布目の跡と糊の跡が残った物がありました。これはこの時代から布が織られ、米が作られていたことを示すもので、糊の跡が残った土器は茨城県内で初めて出土したものだそうです。

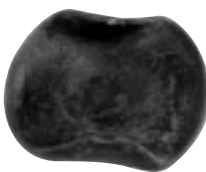
●平安時代では竪穴住居跡が見つか



▲弥生土器底部（布目痕、糊痕）

り、その中から「万吉」という字

が刻まれた耳皿が出土しました。耳皿とははし置きとして使われた土器ですが、おめでたい文字が刻まれるということに何かしらの意図が感じられます。住居跡の1軒からは、久慈川の大洪水により運ばれたと考えられる砂の層も見つかりました。この地域の人のとって久慈川はとても身近な存在であつたため、漁網に使うおもりもいろいろ種類が見つかっています。



▲土師器（耳皿）（「万吉」刻書）

●中世になると、水田を区画した溝の跡やお墓と考えられる穴が見つかっています。お墓と考えられる穴からは「永楽通宝」というお金が見つかっています。

今回の確認調査では泉坂下遺跡の一部しか調査されませんでした。今後様々なことが確認されました。今後の調査により、更なる発見があるかもしれません。今後も皆様のご協力をよろしくお願ひします。

## ■問い合わせ

生涯学習課 生涯学習グループ  
☎52-11111 内線344